

フィリピン人を対象にした日本語教育事業サービスのご紹介

## 従来のフィリピン人向け日本語教育とその問題点

### 従来の日本語教育

いわゆる学校方式。教師が教壇に立ち、20名~40名の生徒に同時に教える。

### 生徒側から見る問題点

- 通常、このような指導スタイルでは、一番レベルの低い生徒に合わせて指導されるため、優秀な生徒にとっては退屈。
- 仕事が終わってから教室に通う生徒は、通学に時間が取られてしまい勉強の時間がない。
- インプット中心の授業になってしまい、問題演習の時間が取れない。
- 開講時期が固定されており、受講希望者は次の開講時期まで待たなければならない。
- 生徒は授業を受けるだけで、自習勉強しないことが多い。

### 運営側の悩み

- 日本人教員の採用に人件費がかかる。
- 教員数と生徒数が比例しないことで、各生徒は質問しづらく、教員も一人では質問に適切に答えられない。
- 授業提供のために広いスペースを用意する必要がある。
- 遠隔地の生徒などには事実上授業を提供出来ないという地理的問題が発生する。
- 途中から学校に来なくなるなど、生徒の離脱が多い  
(理由：交通費が払えない、育児など家庭の事情…など)

これらの課題解決には…

- 地理的条件にとらわれない
- 授業時間に縛られない
- 人件確保の必要がない
- 各生徒の進捗具合に応じて学習を進められる
- 生徒の自主学習意欲を損なわない

このような教育システムの整備と供給が必要。

## 従来の教育方法が招く課題の解決策

**コメント) 貴社のサービスが前ページの問題点を解決できるという文言を入れたいので、サービス名がありましたらお知らせください。**

### 地理的問題の解決

- ・スマホやPCからアクセスできるため、遠隔地や国外居住者であっても自習学習システムの利用が可能。
- ・学校での人間関係が嫌になっての離脱や家庭事情（子どもの世話）を原因とした離脱などを防げる。

### 拘束時間の解決

- ・オンラインを通じ、自由な時間で学習が可能。

### 各生徒に合わせた学習スピード

- ・自習学習システムを用意し、生徒はスマホやPCで自習を中心に学習を進めることが可能。
- ・日本人講師が解説する動画教材で日本語の発音や表現を学び、オンラインでの確認テスト、問題演習テストを行う。
- ・カリキュラムは日本語検定合格にフォーカス。
- ・学習システムは問題演習中心となっているため、検定テストの解答テクニックや時間配分テクニックが自然に身につく。  
(通学型に比べ合格率が高い)
- ・好きなだけ学習出来るため、通学型に比べ早く試験合格レベルに達することが可能。

### 自主学習意欲の継続

- ・モチベーション維持のため、フィリピン人コーチを常駐させる。
- ・チャットでの相談や質問も気軽にすることが可能なため、学習意欲を保ちながら学習を進めることが出来る。
- ・しばらく学習に参加していない生徒へは、コーチからの電話で再度の学習再開を促す。
- ・カリキュラムの一定レベルを修了することで修了証が発行されるなど、随所にモチベーション維持のための工夫。
- ・「今週の学習時間コンテスト」「連続ログイン日数アワード」など各コンテストで他受講生との競争意識を高める企画実施。

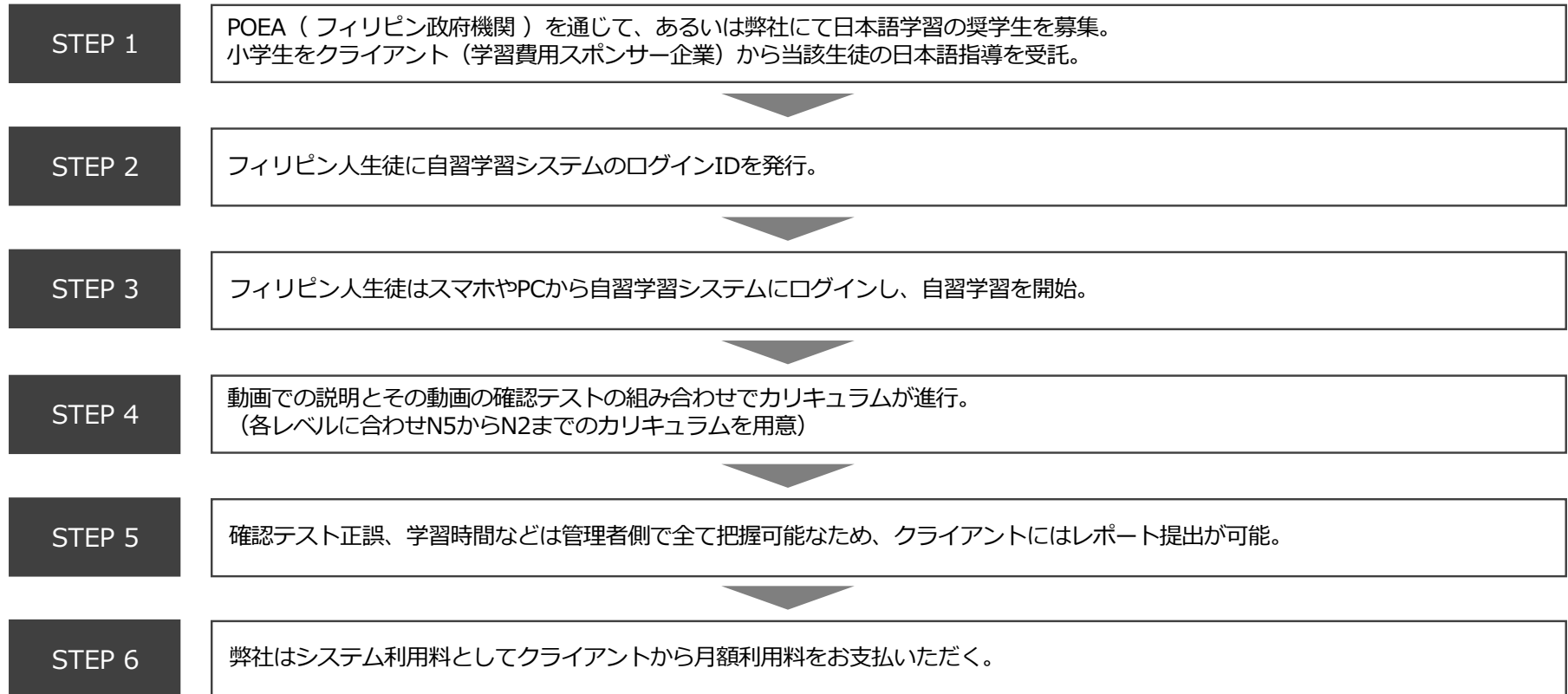
### 講師人材不足問題の解決

- ・コーチそのものに高度なスキルは必要がないため、生徒数の急増にも対応可能。

## フィリピン人採用を考える企業（クライアント）にとってのメリット

クライアントは受講生の学習時間、演習問題の正誤状況など細かい状況を確認可能。  
そのため、規定学習時間を満たさない生徒や、求める日本語能力に達していないと判断できる学習者の採用を早期に見極めることが可能。

## ビジネスモデルのご説明



## 本サービスによって得られるその他のメリット

- ・介護福祉士アシスタントの業務などもカリキュラムを作成し自習システムに組み込むことで、フィリピンにいる間に業務内容を習得することが可能（別途オプション契約）
- ・そのため、クライアントにとっては日本での高額な研修費を削減することが可能となる。
- ・所定の場所での合宿形式で早期に学習を進めることも可能。（寮費、食費などはクライアントご負担、生徒1人あたり3万円/月を想定）